

浄泉寺報

第41号
2025年
お盆



お盆に想うこと

浄泉寺住職 望月廣三

お盆のことを孟蘭盆会うらぼんえと言い、原意はウラバンナ(サンスクリット語)で、意味は「逆さ吊り」です。逆さ吊りになって苦しんでいる先祖を救う法要です。—と云いますと、苦しんでいるのはご先祖のことであって自分とは関係がない、自分のことではない、と思いがちですが、お釈迦さまはそう

は教えていません。「苦しみ悩み、迷いつづけている」のは現に生きている私たち自身のことであると教示されているのです。

人間は迷う生きものです。迷わない人は誰一人いません。ところが、誰も迷いに苦しんでいるのは「私」だと思える人はめったにいません。もしそう思うとしたら、人間世界に神も仏も存在しないでしょう。なぜなら、迷わない人には救いが必要ないからです。仏教は「迷い」を悪としません。迷うことに善悪を言いません。問題なのは迷いを自覚できないことです。自覚できればその迷いは、すでに迷いではないし、迷いとは言わないでしょう。

仏教は自覚道だと教えられた仏者がおられます。つまり、救いとは迷いが無くなる(そんなことは有り得ませんが)ことではなく、

迷いこそが救いの源泉だと知ることでしよう。

浄泉寺からのお知らせ

●秋彼岸のお参り●

九月のお彼岸のお参り日程は、後日おハガキにてお知らせします。

●同朋会 (月例法座) ●

浄泉寺では、毎月お勤めと住職の法話を中心にした同朋会を開催しています。日程等の問合せは浄泉寺まで。皆様のご参加、お待ちしております。

若坊守のひとりごと

東本願寺のしんらん交流館前に「こころの休憩をいきませんか」という言葉と定例法話のお知らせが書かれていました。自転車で通り過ぎながら「こころの休憩って何だろうな」としばらく考えていました。私たちの心は疲れているのでしょうか。だとしたら何に疲れているのでしょうか。

思えば私たちの心は、人と比べて落ち込んだり安心したり、過去を悔いたり未来を憂いたりするばかりで、不安を抱えて生きています。それはつまり、常に自分自身のことより外ばかり見ているせいかもしれません。それがダメということではありません。それが私たちが人間の誤魔化しのきかない姿です。

聞法するということは、不安をなくして何も怖いものがない人になるということではありません。むしろ不安な心を大切に、苦悩を携えたまま安心して生きていく機縁にすることです。

休憩は疲れを自覚することから。迷いという疲れを自覚できない私たちに、仏法があるのではないのでしょうか。

(浄泉寺若坊守・釋尼彌名)

お内仏（仏壇）に座る ③ ～ 蓮如上人御影道中 御下向記 ～

「蓮如上人御影道中」は、本願寺8世・蓮如上人による北陸教化のご苦労とその徳を偲び、吉崎御坊（吉崎別院）で厳修される「蓮如上人御忌法要」[毎年4月23日～5月2日]にあわせて、京都・真宗本廟（東本願寺）と吉崎別院（福井県あわら市）の間を蓮如上人の御影を御輿に乗せ、上人のお供として歩く仏事です。江戸時代から毎年行われ、今年が352回目でした。機関紙『蓮響十方』に掲載された文章を紹介します。



本山のお仕事で、吉崎別院（御影道中）活性化プロジェクトを担当し、昨年は御上洛（吉崎→京都）、今年は御下向（京都→吉崎）の全行程7日間・約200kmを徒歩でお供させていただきました。

300年以上続く御影道中、時代を経ても変わらぬものがあれば変わるものもある。浄土真宗の真髄は、他力に包まれた「生活の仏教」ということに尽きる気がします。人間として生きる、止むに止まれぬ生活…。蓮如上人に導かれ、まさに全身で「生活」を体解しながら歩く、それが私の御影道中でした。

「自然」の美しさや偶然性に如来の御恩を思い、ともすれば恩寵主義に留まりそうになるのですが、私をそこに留まらせおかない如来のはたらきの凄まじさがあります。

蓮如上人につながる綱は、まさに「自我を知らせる他力の綱」でした。綱にぶら下がるような力を感じればイラっとし、疲れのピークに達すれば、些細な会話も耳障りに感じることもありました。どこまでも自分を立て、他を排除する自我が見えてきます。そして、そんな我が身も「自力無功」を知らされ、吉崎への一步一步は、我が計らいのようでありながら計らいにあらざる「他力の道中」でありました。（浄泉寺若院・釋亜世）

御影道中は、旧街道を進みます。御下向では木ノ芽峠、御上洛では湯尾峠といった峠越えもあります。御影道中について詳しくは、下記QRコードからホームページをご覧ください。



令和7年(2025年)年忌表

ご法事（年忌法要）は、亡き人をご縁に仏さまの教えを今生きる私たちが聞かせていただく大切な機会です。浄泉寺本堂でご法事を勤めることもできます。

一周忌	令和6年(2024年)亡
三回忌	令和5年(2023年)亡
七回忌	平成31/令和元年(2019年)亡
十三回忌	平成25年(2013年)亡
十七回忌	平成21年(2009年)亡
二十五回忌	平成13年(2001年)亡
三十三回忌	平成5年(1993年)亡
五十回忌	昭和51年(1976年)亡

<発行元・問い合わせ>



真宗大谷派 楠林山 浄泉寺

電話 0799-22-4798

〒656-0026 洲本市栄町4-3-43

ホームページ <http://jyosenji.asei.info>